



学校教育目標

地域とともに 仲間とともに 生き生きと活動する子の育成

## 児童会活動 6月のめあて 「自分からだれにでも（地域・家庭・校内）明るくあいさつをしよう」

今年度、野登小学校児童会では、1年を通して「誰にでも明るくあいさつ」「周りを見て協力し合う」「自分の役割を自覚して仕事に向き合う」に重点をおき、児童会のメンバーでめあてを考えて取り組んでいます。4、5月は、1年生を新たに迎え、縦割り班活動を充実させ、運動会に向けてみんなで力を合わせることに取り組んできました。

あいさつについては、4月から全校で声をかけ合ってきましたが、梅雨に入り少し気分も沈んだり、疲れが出たりして、あいさつの声に元気がなくなる時期でもあります。そこで、児童会では、6月のめあてを「自分からだれにでも明るくあいさつをしよう」に決めて取り組んでいます。

### 「なぜあいさつが必要なのか」

当たり前すぎるテーマかもしれませんが、そこには子どもたちがこれからの社会を幸せに生きていくための、極めて重要なヒントが隠されていると思っています。

私たちはよく「あいさつはマナーだから」「礼儀だから」と子どもたちに教えます。もちろん、それは間違いではありません。しかし、あいさつの本質はもっと深いところにあると思います。「あいさつ（挨拶）」という言葉の本



来の意味として「挨拶」には「心を開く」、「挨拶」には「相手に迫る、近づく」という意味があります。つまりあいさつには、「私はあなたに心を開いていますよ」というサインがあり、「私はあなたの存在を認めていますよ」という承認のメッセージになります。逆にあいさつをしないということは、相手に対して「私はあなたに関心がありません」と言っているのと同じなのです。たった一言「おはよう」というだけで、私たちは相手の存在を肯定し、自分の存在も受け入れてもらうための土台を一瞬でつくることができます。



神辺小、昼生小とのオンライン朝の会でも児童会が元気に挨拶してくれました。

### 亀山更生保護女性会の皆様によるあいさつ運動



更生保護女性会は、女性の視点から非行防止活動や子育て支援活動などを行い、地域社会を明るくする活動を行っていただいています。今回、地域にお住いの方々にお越しいたごき、児童の登校時間に合わせて、あいさつ運動を行っていただきました。

「元気に挨拶してくれて、私たちも元気になるわ。」とお声をいただきました。

## 「あいさつをするとどんな良いことがあるのか」

では、習慣としてあいさつが身につけていると、どのような「良いこと」があるのでしょうか。私は、大きく分けて3つの力が育つと考えています。

### ①「心のスイッチ」を入れる力

朝、お腹から声を出してあいさつすると、脳が覚醒します。発生することで呼吸が深くなり、新鮮な酸素が脳に送られます。「よし、今日も1日頑張ろう！」という前向きなエンジンがかかります。あいさつができる子は、自分の気持ちを自分でコントロールし、学習や運動に向かう「やる気」スイッチを入れるのが上手になります。

### ②「応援される人」になる力

これが、社会に出たときに最も強力な武器になります。私たちは一人では生きていけません。困った時に助けてもらい、間違った時に教えてもらい、何かに挑戦する時に応援してもらう必要があります。あいさつができる子は、地域の方や先生、友人から愛されるチャンスが増えます。「あの子はいつも気持ちいいね」「何かあったら力になってあげるよ」と思われる力が、あいさつ一つで培われるのです。

### ③自分を守る「安全」の力

「あいさつが活発な地域では犯罪が起きにくい」と聞きます。あいさつは「地域の目があるぞ」「お互い顔見知りだぞ」という連携の証です。あいさつを交わすことで、子どもたちは地域コミュニティーの一員として認識され、多くの大人の目によって守られることになります。あいさつは、自分自身の身を守る見えないバリアにもなります。

### 【大切なポイント～「自分から先にあいさつをする」】

あいさつをされたから返すことも立派ですが、自分から先に声をかけるには「勇気」がいらします。「無視されたらどうしよう」「聞こえなかったらはずかしい」そんな小さな不安を乗り越えて、自分から「おはよう！」と声をかけた瞬間、子どもの心には自信が生まれ、自尊感情も高まります。もし、お子さんが自分からあいさつできているのを見られたら、そのことを褒めてあげてください。子どもたちは、褒められることで「あいさつした方が気持ちいい」と実感し、そして初めてあいさつの習慣が身につくのだと思います。

あいさつできることは、子どもにとって一生ものの価値がある財産です。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」こうした言葉が家庭で・学校で・地域で温かく飛び交うまちは、子どもたちにとって最高の育ちの場となります。大切な子どもたちが育つこの野登をそんな素敵なまちにしていきたいと、私たち教職員もまず私たち自身が子どもたちの手本となる気持ちのよいあいさつを心がけて参ります。

## 4年生社会見学



6月19日(金)、野登水源地・亀山市総合環境センター・味の素 KK 東海事業所に行きました。上下水道課の皆さんや、環境センターの方々に、社会科の学習「健康な暮らしをささえる」の学習において、教科書で学んだことを実際に間近で見学することができ、働く人々の工夫や思い・願いを聞くことができました。「ごみを分別する」「4Rに取り組む」「水を大切にする」などの感想が出され、自分たちの暮らしと結びついた学習ができました。



自分たちが出すゴミの処分は、きついいちもある中の危険な仕事であることを実感しました。自分たちに何ができるかを考えました。



水が高い所から低い所に流れる実験面白かった！！